

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 山形県山形市松波二丁目8-1
管理機関名 山形県教育委員会
代表者名 教育長 菅間 裕晃

令和3年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和3年4月1日（契約締結日）～令和4年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 山形県立山形東高等学校
学校長名 須貝 英彦
類型 グローカル型

3 研究開発名

ふるさとやまがたの課題に立ち向かうグローバルリーダーの育成

4 研究開発概要

将来、グローバルな視点をもって、ふるさとやまがたの課題に果敢に立ち向かうリーダーとして、国内外で活躍する人材を育成するための教育プログラムを、地域の行政機関や専門組織、高等教育機関等と連携して開発する。具体的には全授業に探究型学習を取り入れたり、全ての校内活動（学校行事や部活動等も含む）を、探究型のPDCAサイクルを意識して実施したりするとともに、地域のコンソーシアム機関及び連携協力機関と協働して「山東探究塾」と称する総合的な探究の時間における課題解決研究等の探究活動の教育プログラムの構築及び活動内容の充実化を図る。

5 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設している ・ 開設していない
- ・教育課程の特例の活用 活用している ・ 活用していない

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
奈須 正裕 氏	上智大学・教授	学識経験者（総合的な探究の時間）
森田 智幸 氏	山形大学・准教授	学識経験者（探究型学習）
小川 悠 氏	社団法人 i.club・代表理事	学校教育に専門的知識を有する者（地域と協働した探究活動）
長谷川吉之介氏	2年次PTA副委員長	保護者・地域住民の視点を有する者
古川 光伸 氏	1年次PTA副委員長	保護者・地域住民の視点を有する者

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者
山形市	市長 佐藤 孝弘
公益社団法人 山形県観光物産協会	専務 小野 真哉
東北芸術工科大学	学長 中山 ダイスケ
山形経済同友会	代表幹事 鈴木 隆一
山形県教育委員会	教育長 菅間 裕晃
山形県立山形東高等学校	校長 須貝 英彦

他、山形大学と教育連携協定を結んでいる。

8 カリキュラム開発専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	佐藤 俊一 氏	山形大学・教授	
海外交流アドバイザー	エスタ ウェア 氏	山形東高校・講師	非常勤雇用
地域協働学習支援員	森 美千子	山形東高校・教頭	

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
a) 発表会における研究助言及びコンソーシアム連絡協議会・運営指導委員会における指導助言				○				○			○	
b) 生徒の課題研究や探究活動の発表機会の提供			○		○		○	○	○			
c) 探究型学習推進のための教員の研修機会の提供												

(2) 実績の説明

①管理機関による事業の管理方法や地域において構築するコンソーシアムの構成、カリキュラム開発等専門家、海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員の配置について

- ・管理機関である山形県教育委員会が、事業や研究開発の内容について、計画・実施・報告等について指導助言を行うとともに、コンソーシアム機関との連絡協議会や運営指導委員会の際に、各コンソーシアム機関の担当者や研究助言者、運営委員の意見や提言等を把握しながら、運営指導を行っている。
- ・カリキュラム開発等専門家には、事業に関する情報提供やアドバイスを随時無報酬でお願いしている。海外交流アドバイザーは、管理機関である山形県教育委員会が非常勤講師として雇用した。また、地域協働学習実施支援員についても、教頭2人制を継続し、内1名の教頭が担当するよう体制を整えている。

②管理機関による主体的な取組について

- ・探究型学習推進事業の取組における教職員の校外研修の実施及び校内研修のための講師謝金
- ・旅費、訪問研修の旅費等の支援

今年度も各校3名ずつの教員の研修を年3回実施し、探究型学習及び3観点の観点別学習状況の評価を取り入れた授業研究・指導案作りを取組内容とする研修を主催し、山形東高校

からは国語科・数学科・理科（生物）の教諭が参加し、研修に取り組んだ。

また、先進校視察のための訪問研修の旅費を支援し、山形東高校は国語科教員2名が群馬県立太田高等学校を訪問し、観点別学習状況の評価の在り方について研修を行うとともに、理科科主任と国際科主任の2名が岐阜県立岐阜高等学校と福井県立藤島高等学校を訪問し、生徒の資質・能力に結びつく探究型学習や探究活動等、様々な教育活動について研修することができた。

・国際探究科の教育プログラムの支援（海外研修引率旅費等）

今年度もシンガポール海外研修は実施無し。一方で、グローバル人材育成のための講師謝金の支援を行い、山形東高校は、シンガポール在住の日立ソリューションズアジアパシフィック社長兼日立ソリューションズインド会長である 宮林主則 氏を講師とする講座をオンラインで実施した。

・ICT活用事業を実施し、各校の各教室のWi-Fi環境をさらに整備するとともに、各校に生徒への貸出用PCとWi-Fiルーター、各教室へのPC及びプロジェクター、教員用端末(iPad)の整備等を進めている。今年度はさらに各校2名の教員をICT活用推進委員に任命し、年2～3回の研修を実施した。

③事業終了後の自走を見据えた取組について（前記（1）実施日程のabc）

a) 発表会における研究助言及びコンソーシアム連絡協議会・運営指導委員会における指導助言
 プレ発表会（7月）・中間発表会（11月）・成果発表会（2月）において、生徒の課題研究発表に対する指導助言・評価を行うとともに、参加者（地域の大学・行政・企業・協力者・教員等）との情報交換を行いながら、運営に対する指導助言・評価を行った。

b) 生徒の課題研究や探究活動の発表機会の提供

主催事業の医進塾において、探究活動及び発表会を設定（6月・8月・10月）するとともに、生徒の探究活動の成果を発表する機会として「ビブリオバトル」（11月）、「郷土Yamagataふるさと探究コンテスト」（11月）、「山形県課題研究発表会」（12月）を主催した。

c) 探究型学習推進のための教員の研修機会の提供

「令和3年度各教科等探究型学習推進事業」を主催（9月・11月・12月に実施）するとともに、各教科の探究型学習推進講座（於：県教育センター）を実施（7月～11月）、先進校視察、グローバル人材育成講座の支援を行った。

④高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結状況について

・東北大学（令和3年3月まで）・東北芸術工科大学・山形大学・山形市と教育連携協定締結

10 研究開発の実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
a) 1年次生「山東探究塾I」（総合的な探究の時間）・教科「情報」等での探究活動				プレ発表会の参観		ミニ発表		中間発表会の参観			成果発表会の参観	テーマ発表
b) 1年次生大学研修・コース別研修					大学研修				コース別研修			
c) 1年次生グローバル学習・活動（講演・交流）		講演	講演				講演等		交流			講演

d) 2年次生「山東探究塾Ⅱ」(総合的な探究の時間)・「課題研究」等での探究活動	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	→			プレ発表	→			中間発表	→			成果発表	→
e) 2年次生グローバル学習・活動海外研修(今年度中止)・英語発表	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
				説明会	→					英語発表①②	英語発表③	講演会報告書	
f) 2年次生郷土研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
					→		郷土研修						
g) 3年次生「山東探究塾Ⅲ」(総合的な探究の時間)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	研究集録	自己探究	模擬面接	横断型問題	→	小論文等	志願理由書等	→		志願理由書等	→		

(2) 実績の説明

①研究開発の内容や地域課題研究の内容について

i) 1年次生の実績(前記(1)のa b c) ※他年次と合同の内容は高年次に記載

月日・行事・対象	内容
4月12日(月)～15日(木) 新入生研修	「山東探究塾と探究型学習」講師：本校教育企画課長 佐々木隆行 「ICTの活用～Google Workspaceの利用の仕方～」教育企画課
4月15日(木) 探究活動オリエンテーション	「探究活動の基礎(デザイン思考)を学ぶ」(講義・ワークショップ)講師：東北芸術工科大学教授 柚木泰彦氏
5月20日(木)	グローバルリーダー人材育成講話(未来のふる里産業人養成講座) 「5Gなど最先端の情報通信技術(ICT)と情報通信社会の展望」(講演)講師 損害保険ジャパン株式会社 顧問 阪本泰男氏
6月3日(木)	先輩からのメッセージ(県教育委員会キャリア教育推進事業「山形のスペシャリストに聞くトップセミナー」) 「スポーツ科学への招待」(講演) 講師：山形大学 地域教育文化学部教授 渡邊信晃氏
6月8日(火)	振り返りのKJ法 「SDGs達成に向けたICTの効果的な活用方法を考える」 各HR担任
7月13日(火)	ビブリオバトル説明会(オンライン)講師：教育企画課 佐藤鋭一
7月27日(火)	第1回 現役東大生のOB・OGリモート講話 本校卒業生6名
7月～8月	ビブリオバトル予選① 班牙選 ビブリオバトル予選② クラス代表者決定戦
8月20日(金) 東北大研修(オンライン)	全体会：「大学の魅力と山東生に期待する学びについて」(講演) 講師：東北大学 高度教養教育・学生支援機構 特任教授 檜田豪利氏 分科会①：「各学部の学びについて」(模擬講義) 講師：東北大学各学部教授・准教授・講師7名 分科会②：「学生生活と高校での学びについて」(座談会) 本校OB・OG(東北大生)7名
8月29日(日)	ビブリオバトル・クラス対抗校内大会(2・3年次希望者も参戦) (上位2名・県大会出場)
10月1日(金) 職業人インタビュー	パネルディスカッション(一部オンライン) 国内外で活躍する本校の卒業生5名
10月18日(月) 教科・公民「現代社会」の時間	山形東高校における「生徒と県議会議員の意見交換会」 県議会議員5名 テーマ「地方創生(山形の活性化に向けて)」
11月16日(火) マイプロジェクト講座	「マイプロジェクトについて」(講義・ワークショップ) 講師：東北芸術工科大学 教授 岡崎エミ氏

12月2日(木)	「課題研究ガイダンス～探究活動を意義あるものにするために～」 (講義) 講師：本校教育企画課 佐藤鋭一
12月9日(木) 探究活動ガイダンス	課題研究弟子入り講座 講師：2年次生研究グループ
12月20日(月)	第1回 現役東大生のOB・OGリモート講話 本校卒業生6名
12月21日(火) コース別研修 普通科理系・理数探究科志望者	山形大学工学部 *山形大学工学部概要説明：講師 教授 門馬甲兒 氏 *模擬講義「ノーベル賞は夢じゃない～成功は成功を呼ぶ～」 講師 教授 城戸淳二 氏 (高分子・有機材料工学科) *米沢市上杉博物館見学
12月22日(水) 国際探究科志望者	東北大学グローバルラーニングセンター *東北大学グローバルリーダー育成プログラムの説明： 講師：特任准教授 坂本友香 氏、東北大生3名 *留学生との国際交流：留学生5名 *宮城県美術館見学
12月24日(金) コース別校外研修 普通科文系志望者	「探究活動のためのデザイン思考実践」(講義・ワークショップ) 講師：プロダクトデザイン学科 教授 柚木泰彦 氏
令和4年1月20日(木) 文理別探究演習 普通科文系・国際探究科希望者	「デザイン選手権講座」(講義・ワークショップ) 講師：東北芸術工科大学 教授 ボブ田中 氏、他学生4名
1月13日(木)・ 27日(木) 普通科文系・国際探究科希望者	「模擬国連講座」 講師：教育企画課佐々木隆行・慶応義塾大学長澤パティ明寿 氏
1月13日(木)・20日(木) ・27日(木) 文理別探究演習 普通科理系・理数探究科志望者	「数学・情報/生物・物理/化学」文理別研修 講師：本校各教科(文理)担当教員
3月18日(金)	山東探究塾Ⅰ・課題研究テーマ発表会 助言者：校内職員

ii) 2年次生の実績(前記(1)のd e f)

月日・対象	内容
令和3年3月～7月	研究・調査・実験や実践等の探究活動を行う。
～令和4年2月まで随時	各コンソーシアム機関、研究協力者への相談、指導・助言を受ける
7月21日(水) 1・2年次生全員	*山東探究塾Ⅱ・課題研究プレ発表会(一部オンライン) 助言者・研究協力者：対面37名・オンライン3名
8月～11月	研究・調査・実験や実践、各種大会への応募等の探究活動実践
9月28日(火) 郷土研修 2年次生全員	*午前「山形県の企業について」(講義) 講師：山形大学人文社会科学部 准教授 吉原元子 氏 *午後「企業訪問」(6コース・11社) ・(株)山本製作所・ベーリンガーインゲルハイム製薬(株) ・ミクロン精密(株)・(株)片桐製作所 ・株式会社ハッピージャパン・株式会社デンソーFA山形 ・慶応義塾大学先端生命科学研究所 ・ソニセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社・株式会社高研 ・ゼオンケミカルズ米沢(株)・小森マシナリー
11月11日(木) 1・2年次生全員	*山東探究塾Ⅱ・課題研究中間発表会・外部発表審査会 開会行事：先進校発表(宮城県仙台第三高等学校) 審査員・助言者・研究協力者53名(内、オンライン1名)
11月～令和4年2月	研究・調査・実験や実践、各種大会での発表等の探究活動実践
2月3日(木) 1・2年次生全員	*山東探究塾Ⅱ・課題研究成果発表会 参加予定者：50名(→来校者を制限し、動画視聴に変更)

	<p>* 成果発表会閉会行事 演題「地域・日本・世界で活躍するグローバルリーダー／困難な課題に立ち向かうイノベーターをめざして」 講師：i.club 代表理事 小川悠 氏</p> <p>* 事業成果報告会 事業報告：教育企画課長 佐々木隆行 パネルディスカッション：事業委員よりパネリスト8名 事業講評：上智大学 教授 奈須正裕 氏</p>
3月7日（月） グローバル人材育成講座 （シンガポールよりオンライン） 1・2年次全員	「世界はワクワクであふれているー今こそ翼を紡げー」 講師：日立ソリューションズ・アジアパシフィック社長 兼 日立ソリューションズ・インド会長 宮林主則 氏
3月25日（金） 1・2年次生有志	CHALLENGE 模擬国連 in 山形東 本校の探究部地域国際探究班が、県内・県外の高校に呼び掛けて、対面（一部オンライン）の模擬国連を主催

iii) 山東探究塾Ⅱ課題研究の取組について

2年次生全員が取り組む探究活動のテーマや課題設定は、生徒の主体的な取組になるように、各自の興味関心・進路・適性に合うものとして生徒に任せている。研究に取り組むメンバー決めについても、原則的にはグループ研究を推奨しているが、主体性を優先し、個人研究も認めるとともに、1人が複数のプロジェクトに関わっても構わないとしている。

テーマについては、研究助言者の割り振りや外部の発表機会の紹介等便宜的な理由から、地域振興・暮らし改善・防災減災・ものづくり・国際関連・人文・情報・数学・物理・化学・生物の11分野のいずれかに分類させるとともに、テーマにはSDGs 17の目標も付して、グローバル課題を意識するように指導している。一方、研究が進み、探究サイクルが回る中で、課題解決に用いる視点や手法が変わることで、分野やテーマそのものも変わることがあるため、途中の変更を認めている。合わせて、グループの分離・融合、メンバー入れ替わりも柔軟に認めている。

1年次より取り組んでいるテーマや、先輩の研究を引き継いだテーマも含めて、今年度の成果発表会では91本のグループまたは個人研究が揃った。（詳細については、「研究開発完了報告書（第3年次・最終）」に掲載）

iv) 3年次生の実績

月日・対象	内容
令和3年5月まで	研究収録原稿の完成
4月15日（木） 山東探究塾Ⅲガイダンス	「山東探究塾Ⅲの計画と見通しについて」 講師：教育企画課長 佐々木隆行
5月6日（木）・13日（木） 20日（木）	「自己探究」 * 探究ノートⅢの活用 * 自己アピール関連図の作成
6月3日（木）	「面接ガイダンス」
6月18日（金） 進路講演会	「受験にどう向かうか」 講師：学校法人河合塾仙台校理事 佐々木 一幸 氏
6月24日（木）	模擬面接・オンライン面接体験
7月8日（木）	複合資料分析・教科横断型問題の取組
8月以降	各自、進路実現のための論文・小論文・志願理由書等への取組
7月～、8月27日（金）～ 29日（日） 1～3年次生全員	探究実践「コロナ禍における学校祭のあり方」 各HR、各部署チーフを中心に計画・準備・実践
9月17日（金）	羽黒山フィールドワーク
10月29日（金） 1～3年次生全員	創立記念講演 演題：「コロナ禍の中の若き後輩たちへ～変わるもの、変わらないもの、変えるもの～」 講師：仙台医療センターウイルスセンター長 西村秀一 氏

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け（各教科

・科目や総合的な学習（探究）の時間、学校設定教科・科目等）

＊1年次・2年次普通科・国際探究科：総合的な探究の時間

＊2年次理数探究科：課題研究＋総合的な探究の時間

＊3年次：総合的な探究の時間

1年次・3年次は全員が同じ教育プログラムを実施し、1年次はまとめ取りも含めて1年間に渡って、3年次は前期に集中させて計画的に取り組んでいる。2年次は探究科が1単位多いが、グループ編成において、普通科との融合や文系・理系との融合もあるため、総合的な探究の時間を日課の最後の時間に設定し、放課後にメンバーが合流して連続して取り組むことが出来るように工夫している。また休日等、課外の探究活動は部活動（探究部）として認めることで、教員の指導や大会引率もできるようにしている。

③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

1年次の教育プログラムと関連させながら、教科「情報」において、地域課題やSDGsに関連したものを教材にして調べ学習を行ったり、ポスターを作成したり、発表したりする他、統計や著作権について学ぶことで、探究活動に必要な学習スキルやリテラシーを生徒に身に付けさせる工夫をしている。また、全教科の教員が研究分野を問わずに2年次の研究を担当することで、各教科・科目のものの見方・考え方を研究内容に取り入れる指導ができるよう企図している。さらに、2年次国際探究科の教科「英語」の「総合英語」や「異文化理解」の科目では、自らの課題研究を題材に、英語発表に取り組むことで、英語コミュニケーションのスキルを身に付けさせる取組を行っている。

また、今年度は各教科・科目の観点別学習状況の評価とともに、探究活動で身につけた（身に付けさせたい）応用・転用力、俯瞰力、創造力、イノベーション力も意識しながら、教科等横断的な学びにつながるような授業展開ができるよう、研修を深めた。さらに、共通テストをはじめとする、大学入試問題の多くが、1教科の知識・技能だけでは解くことが出来ないような作りになっており、各教科・科目で論理的思考力や情報処理能力、課題発見力等、求められる資質・能力を意識しながら今後授業展開ができるよう、職員研修会で話題にした。

④地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制及び、学校全体の研究開発体制について

本校では、校長の下、教頭及び教育企画課が推進の主体となり、各コンソーシアム機関や教育連携機関の担当者と連絡を密にしながらカリキュラム・マネジメントを行っている。課題研究学術分野に関しては、教育に関する連携協定を締結している東北芸術工科大学、山形大学の他、東北大学や県立産業技術短期大学校等の先生方に、様々な機会での指導・助言を受けるとともに、地域課題については、山形市や山形県観光物産協会、経済同友会等コンソーシアム機関の他、JICA東北や県の組織・機関、様々な地元企業や団体等からの情報提供や指導・助言を受けながら、「山東探究塾」（総合的な探究の時間）及び「課題研究」（理数探究科の科目）、「SG人文ゼミ」（国際探究科の総合的な探究の時間）等の教育プログラムを実践している。

校内において、「山東探究塾」はⅠ～Ⅲに分かれて全職員が担当しており、各講座や発表会等を地域と協働しながら実施している。特に山東探究塾Ⅱの課題研究は、90本以上の研究があるため、多くの教員を割り当てるが、必ずしも担当する研究が専門教科に関係するわけではなく、1人が複数の研究を担当するのが常である。課題研究を生徒の主體的な研究とするためにも、敢えて、担当者による指導は最小限に留めて、研究の進捗や生徒の安全を把握することとし、必要であれば、実践においては渉外的な役割を担うこととしている。学校としての依頼や対応が必要な場合等は、教育企画課及び地域協働学習支援員である教頭に連絡・報告・相談を行う体制を整えており、全校あげて探究活動の指導に取り組んでいる。

また、研究開発においても、校長の下、教育企画課が中心となって推進し、特に今年度は中核教員（山形県教育委員会が実施した、探究科等設置校における探究型学習を推進するためのコーディネートや指導力向上に関する研修を経験した教員）を経験して探究科を3年間受け持った教諭が教育企画課長となって改革を推進している。昨年度来、多くのメディアに取り上げられたこ

とから、全国の高等学校から多くの学校訪問を受け、情報共有の機会が増えるとともに、本校職員も先進校視察や各研修会への参加によって、得られる教育情報が非常に増え、職員研修会等、様々な機会に職員に還元されている。

⑤学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画
・方法を改善していく仕組みについて

校長の下で、年3回計画している発表会において、コンソーシアム連絡協議会及び運営指導委員会を実施し、教育プログラムや指導内容の評価を受けるとともに、改善点を確認している。また、校内では、年間計画に基づき、各分掌会議・各年次会・総務委員会・職員会議を月1回、教科主任会は年2回行っているが、研究開発のための特別な委員会を組織することはせず、教育企画課が中心となって、管理職に相談しながら各年次や全体の教育プログラムの実施・計画をしている。

今年度は特に、学校全体の教育活動に探究活動をどう位置付けるか、具体的には「学びのストーリー」と呼ぶ3年間の学習指導とキャリア教育と探究活動の関連性や流れの見直しが課題であったため、その都度、必要な分掌の担当者が集まってコア会議を行うなど、フレキシブルに取り組んだ。また、来年度より実施する新教育課程のシラバスと観点別学習状況の評価に関して、教科主任会を計画よりも多く実施し、取組内容や改善点を確認した。

⑥カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

- * 山形市役所（コンソーシアム機関）による山形市コミュニティファンド（市民活動支援基金）の機会の提供、ユネスコ創造都市ネットワーク及び国際ドキュメンタリー映画祭の協働の機会の提供、他課題研究のテーマに合わせた協働の取組や発表の機会の提供等
- * 山形県観光物産協会（コンソーシアム機関）による地域課題とその解決のための取組事例についての情報提供等
- * 東北芸術工科大学（コンソーシアム機関）における「デザイン思考」の講座、「マイプロジェクトアワード」講座、「デザイン選手権」講座の実施、課題研究のテーマに合わせた指導及び協働的な取組、職員研修の機会となる「探究型学習研究大会」の主催等
- * 山形大学（連携協力機関）による課題研究や探究型学習等の各種講座、模擬講義等、学びの機会の提供、弁論大会・発表会の主催等
- * 東北大学による学術研究についての模擬講義や出前講座、各種講座、国際交流の場の提供等学びの機会の提供等
- * 山形県立産業技術短期大学校による学術研究についての出前講座等、学びの機会の提供 等

⑦運営指導委員会等、取組に対する指導助言等に関する専門家からの支援について

上智大学教授の奈須正裕氏は、本校が連携協定を締結する東北芸術工科大学主催の探究型学習研究大会の講師を引き受けていただいた他、事業報告会では、総括的な事業の評価と今後の本校の探究型学習の在り方についてご提言いただいた。事業終了後も職員研修会の講師等を依頼しながら、引き続き本校の教育改革に対して指導助言をお願いしたいと考えている。

山形大学准教授の森田智幸氏は、「学びのフォーラム」を開催し、本校職員・生徒も参加の上、探究型学習について具体的にご指導をいただいた。事業終了後も引き続き探究型学習の指導の在り方について、指導助言をお願いしたいと考えている。

社団法人 i.club 代表理事の小川悠氏には、今年度は課題であった「山東探究塾Ⅲ」の自己探究のプログラムにおいて、ブラッシュアップ講座を実施していただいた。事業終了後も引き続き、郷土に愛着を持ちながらグローバルに活躍する人材育成の教育プログラムの開発に指導助言をいただきたいと考えている。

⑧類型毎の趣旨に応じた取組について

i) 「山東探究塾」

普通科・探究科ともに全生徒が取り組んでいるが、2年次探究科は、理数探究科・国際探究科ともに1単位時間多く取り組んでおり、国際探究科は学校設定科目「SG人文ゼミ」と総合的な探究の時間の2時間を実施。理数探究科は「課題研究」1単位で総合的な探究の時間を代替しており、評価も行っている。

ii) 1年次大学研修・コース別研修等、研修について

大学研修は、当初東北大学の教員・学生を本校に招いて、対面で実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で急遽オンラインに変更して実施した。

コース別研修は、普通科文系志望者が東北芸術工科大学におけるデザイン思考講座を受講、国際探究科志望者は東北大学グローバルセンターでグローバル人材育成プログラムの説明と留学生との国際交流を、普通科理系志望者と理数探究科志望者は山形大学工学部の模擬講義を受講した。国際探究科志望者はJICA東北訪問を、普通科理系志望者と理数探究科志望者は工学部の研究関連施設の見学を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防のため、美術館・博物館見学に内容を変えて実施することができた。

iii) 2年次海外研修について

今年度も国際探究科生徒を中心としたシンガポール海外研修は中止し、昨年と同様に村山地区のALT及び山形市と山形県の国際交流員を招聘して、英語発表の指導や異文化交流を実施した。また、シンガポールとは今年度、株式会社JTBとの共催によりオンラインで発表会・交流会を実施した。

⑨成果の普及方法・実績について

- * 地域と協働した生徒の探究活動について、広くその取り組みを広報するために、オンラインも含めて、各種学会や大会、発表会等、校外での発表を促している。学校に届く案内や実施要項、成果等は、Google Workspaceのclassroomや、毎月の通信・HP等で随時広報している。
- * 研究助言者や県内外の教員が集まる中間発表会において、優れた県外の先進校発表と、本校の代表発表を参加者全員で参観し、専門家からの評価を聞くことで、生徒の課題研究と教員の指導のレベルアップを図った。
- * グローカルな視点を持った探究活動を行うグループが、事業の発表会であるGlocal High School Meetings 2022(全国高等学校グローバル探究オンライン発表会)において、英語発表・日本語発表それぞれで金賞(英語は文部科学大臣賞、日本語は大会委員長特別賞)を受賞し、同様の事業に取り組んでいる全国の高等学校に向けて発表することが出来た。
- * 地域との協働や学校教育改革、高大接続改革等、課題を同じくする高校のカリキュラムモデルになることを目指していたが、事業の成果や地域と協働した生徒の探究活動について、全国版のメディアに取り上げられたことから、さらなる取材や学校訪問の依頼が多数あった。また、連携協定を締結している東北芸術工科大学の「探究型学習研究大会」で事業成果を発表し、評価を受ける機会も得たことで、課題を同じくする多くの高校と、共に学ぶ機会や情報交換の場が増えている。

1.1 目標の進捗状況、成果、評価

(1) 目標設定シートの数値目標より

- (目標 1-a) 対象である3年次生について、GTECまたは英語検定を受検し、A2レベルは99.5%、B1以上が49%あったが、B2レベルに達している生徒は6.1%であった(昨年度はデータなし、一昨年度比A2レベル-0.5%、B1以上+9.9%、B2レベル+4.4%)。結果的に30%の生徒にB2レベルの英語力を身に付けさせるという高い数値目標は達成できなかった。
- (目標 1-b) 令和3年度の卒業生は、山形大学進学者は44人の(17.8%)内、山形大学医学部医学科進学者は9人であった。
現3年次生徒の現時点での山形大学出願者数も後期を含めて65人。内、山形大学医学部医学科志望者は15人であり、事業対象ではなかった令和2年度の卒業生が34人(内医・医10人)、令和元年度は18人(内医・医4人)であったことから、地元志向が高まっていると言える。
- (目標 1-c) 校外発表件数：現時点で把握しているもので、今年度中の外部発表は、のべ88件・305人の生徒が様々な校外に向けた発表や活動参加を行った。(昨年度は、のべ52件・174人)
- (目標 2-a) コロナ禍においても、多くの外部の助言者を招いたプレ発表会・中間発表会を実施した。最後の成果発表会(事業報告会を兼ねる)は、オミクロン株の爆発的な感染拡大

- で、外部助言者の大部分は動画発表の視聴及びコメントをいただく形で実施した。
- (目標 2-b) 現 3 年次生が、1 年次で 11 回、2 年次で 9 回、3 年次で 2 回の計 22 回実施。
- (目標 2-c) 授業で英語ディベートや英語発表に取り組んでいるほか、現 2 年次生は全員が研究概要の英語によるアブストラクトの作成に取り組んでいる。また、国際探究科及び希望者は課題研究の英語発表を行うとともに、希望制で英語ディベートや模擬国連の活動に取り組んでいる。
- (目標 3-a) 事業担当指導主事によるプレ・中間・成果発表会における指導助言を行った。コンソーシアム連絡協議会への出席、運営指導委員会の開催を行い、その中で指導助言を行った。
- (目標 3-b) コンソーシアム連絡協議会を年 3 回実施する中で、助言者や機関担当者よりご発言いただき、検証の参考にしている。

<添付資料>目標設定シート

(2) 成果報告会より

①郷土愛の育成および多様な能力・資質の伸長について

3 年次の自己探究や進学指導時において、多様な資質・能力が育っていることが感じられた。特に、課題解決の探究サイクルを実生活に活かす生徒が増えた。また、グローバル・俯瞰など複数の視点で物事を捉えたり、人・物・資金・時間などのリソースのマネジメントができたり、分野・領域を横断した発想や、具体的な進路希望を持つ生徒が以前より多くみられるようになった。山形県や地元に関する理解も以前より深まっており、将来、山形県に貢献する生徒に育っていることを期待する。

②地域と協働した学びについて

学校と地域の協働体制を構築することができた。学校としてのメリットはもちろんあるが、協力していただいている機関（大学、行政、民間）や研究協力者が増えていることから、高校と関わるメリットも生じてきているのではないかと感じる。生徒の探究活動実践の場や、成果発表の機会の提供も増えており、連携を継続・維持しながら学びの場を増やしていきたい。

③学校間の協働した学びについて

県内外の多くの学校の教員が本校に訪問したり、本校の研修会や発表会に参加することで、情報交換する機会が増えるとともに、本校の教員も積極的に事業の成果について外部発表をしたり、取材を受けることによって、さらに様々な学校からの問い合わせも増えている。宮城県仙台第三高校とは、教員・生徒の研修のために行き来する学校連携のような取組も始めており、来年度以降もこうした県内外の学校と協働した学びの場や機会を増やし、互いに学校教育改革と人材育成に切磋琢磨していきたい。

1.2 次年度以降の課題及び改善点

(1) 協働体制の維持・継続とさらなる協力者の開拓

これまで構築してきた協働体制を引き続き継続・維持するよう、山東探究塾を支援する外部人材のプラットフォームを整備する。その際に、さらなる協力者を増やすために「山東探究塾サポーターズクラブ」を立ち上げ、同窓会報で登録を呼びかける他、連携や発表会の機会、知人の紹介等、様々な機会に連携した際の呼びかけ等で、広く登録を呼びかけていく。

(2) 山形東高校「学びのストーリー」の完成

本事業で開発した教育プログラムを、「学びのストーリー」と呼ぶ本校の学習指導とキャリア教育の流れに位置づけることで、より効率のよい効果的な教育プログラムが完成すると考え、見直しを図ってきた。今後は新カリキュラムとなる令和 4 年度入学生の 3 年間の「学びのストーリー」を高大接続改革に合わせて策定していきたいと考える。

【担当者】

担当課	山形県教育庁高校教育課	T E L	023-630-2869
氏 名	石黒 吉寛	F A X	023-630-2774
職 名	指導主事	e-mail	isiguroy@pref.yamagata.jp